

評価準 : 【A:取り組みが理想的な状態 B:取り組みがほぼできている】
 【C:取り組みに對しもう少し努力が必要 D:今後十分な努力が必要】

評価方法 : 【A:5 B:4 C:3 D:2】

※記入はA~Dでお願いします。

自己評価の観点		評価
1. 園の保育理念・保育方針を理解について		
①園の保育理念や保育方針を理解している。		B
2. 保育所保育指針の理解について		
①保育所保育指針を理解していると思う。		B
3. 子どもの発達援助の基本について		
①一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。		B
②定期的に指導計画の評価・見直しを行いその結果を指導計画に反映している。		B
③一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標についての記録がある。		B
④それぞれの子どもに関する情報を周知している。		A
⑤一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について、話し合う為のケース検討を必要に応じて実施している。		B
4. 健康管理について		
①保健年間計画表に基づき子どもの健康管理を行っている。		A
②身体測定や健康診断の結果について定期的に記録し、子どもの健康状態を保護者に伝達している。		A
③乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防に努めている。		A
④感染症の予防に努め保護者にも伝達している。		A
5. 食事について		
①食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している。		B
②発達に応じた食事の介助を適切に行い、落ち着いた環境で楽しく食事ができるように工夫している。		B
③調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている。		B
④個人差や食欲に応じて量を加減できるように工夫している。		A
6. 保育環境について		
①気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気などに配慮している。		A
②園内の清掃がなされ、清潔に心地よく過ごせるように配慮している。		B
③屋内外の衛生面・安全面に配慮している。		B
④生活の場面にあった保育者の声、音楽など音に配慮している。		B
⑤植物や小動物を見たり触れたり育てたりする経験ができるように工夫している。		A
⑥園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。		B
⑦屋外での活動の場が確保され、子どもたちが活動しやすいように工夫している。		A

自己評価の観点		評価
7-1 保育内容について（子どもへの理解と受容）		
①子どもにわかりやすい言葉づかいで、穏やかに話している。		B
②せかす言葉や制止する言葉を不必要に使わないようにしている。		B
③子どもの質問に対してよく耳を傾け、何を求めているかを理解し、適切に対応をしている。		B
7-2 保育内容について（基本的生活習慣などに関して）		
①基本的生活習慣については、一人ひとりの自主性を尊重し家庭と連携しながら子どもの状況に応じて対応している。		B
②着脱の自立に向けて年齢や個人差に応じた介助や関わり方を工夫している。		B
③安心して休息（昼寝）ができるように配慮している。		B
④トイレは、一人ひとりのリズムに合わせるようにしている。		B
7-3 保育内容について（自発的に活動できる環境作りについて）		
①子どもの発達段階に即した玩具や遊具を、質・量ともに適切に用意している。		B
②好きな遊びができる時間やコーナーを用意している。		B
7-4 保育内容について（身近な自然や社会と関わる取り組みについて）		
①身近な動植物と接する事により、命の大切さや季節感など豊かな感性を育むよう配慮している。		B
②生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。		B
③散歩などを通して地域の方に接し挨拶や言葉を交わすなどして社会性の芽生えを工夫している。		B
7-5 保育内容について（様々な表現活動が体験できるような配慮について）		
①身体等を使った様々な表現遊びが取り入れられている。		C
②様々な素材を使って、描いたり、作ったり、表現できるように配慮されている。		B
③絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。		A
7-6 保育内容について（人間関係の育ちの関わりについて）		
①子ども同士の関係をより良くするような適切な言葉かけや働きかけをしている。		B
②年齢に応じ、順番を守る等社会的ルールを身につけていくように配慮している。		B
4.3		
①授乳は子どもが欲しがる時に目を合わせたり、微笑みかけたりしながら飲ませている。		B
②離乳食については家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮している。		A
③おむつ交換時は、優しく声をかけたりスキンシップをとりながら行っている。		B
④一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠ができるように空間が確保されている。		B
⑤外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。		A
⑥指導計画は乳幼児の実態に即して作成している。		B
⑦保育所保育指針に基づく援助、支援を適切に行っている。		B
⑧評価結果を基に、保育の改善に努めている。		B

自己評価の観点		評価
7-8 保育内容について（長時間保育について）		
①好きな事をしてくつろげる空間や遊具、玩具がある。		B
②一人ひとりの子どもの要求に応じて側にいたり、声をかける等して接している。		B
③子どもの状況について、職員間の引き継ぎを適切に行っている。		A
7-9 保育内容について（障がい児保育について）		
①保育を実施するにあたり、園全体の職員が、その子どもとの障がいの状況を十分理解している。		B
②障がい児を持つ親を受容し、共に育てるという気持ちを持てるような関係をつくっている。		B
4		
①他施設との年間交流計画は保育目標や課題にそったものになっている。		B
②他施設との幼児・児童生徒と触れ合うことで、幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるように援助、配慮している。		B
③日常的に情報を交換し、それを交流活動に活かしている。		C
9.安全・衛生・危機管理について		
①避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて実施している。		A
②緊急な場合に備えての訓練や研修が行われている。		B
③事故防止、安全管理のためのチェックリストを使い定期的に点検、確認が行われている。		B
④食中毒や感染症予防の具体的な取り組みを行っている。		B
10.守秘義務の遵守について		
①保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について守られている。		A
②保護者や地域の人から相談事項についてプライバシーの保護・話された内容の秘密保持を徹底し守られている。		A
11.子育て支援について（保護者の育児支援について）		
①子どもの送迎時に子どもの様子を伝え合う様にしている。		A
②連絡帳や掲示板などできめ細やかに情報交換をしている。		A
③個人懇談や、必要に応じて個別懇談を行っている。		B
④入園説明会や入園式などでは、保育内容や目的をわかりやすく説明し情報提供を行っている。		B
12.行事について		
①行事の種類や実施回数など適切に行っている。		A
②行事のねらいを計画や実施に十分活かしている。		B
③計画・実施・評価・改善の体制を取っている。		B
④保護者の願いや親の意見を取り入れている。		B

－ 31年度の総合的な評価・反省 －

- 31年度は、5月より年号が変わり令和元年度となりました。令和には人々が明日への希望と共にそれぞれの花を大きく咲かせる事が出来る日本となるようにという大きな願いが込められています。その思いがみんなを支え良き令和の時代が過ごせる事を願いました。
- 31年度、88名の子ども達と共に季節を感じながら、一人一人が安心して過ごせる居場所となれるような保育を目指し、年長を中心に年間の行事を予定通りに楽しみながら行う事が出来ました。しかし、散歩中の園児の列に車が衝突するなどの痛ましい事故があり、散歩コースの見直しや園外に出る際には、職員の配置を変更したり更に細心の注意を払うようになりました。
- けがについて、ここ何年か大きな怪我はありませんでしたが、今年以上児の怪我が続きました。5件中の3件が園庭遊びでの怪我で、完治に時間がかかりました。
- 1.平地で足を滑らせて足首の捻挫(レントゲンには映らないが骨にひびだったかも)
 - 2.三輪車を友達に押しもらいスピードが出すぎハンドルを持っていた指がフェンスに当たり骨折
 - 3.トンネルの上からジャンプして着地と同時に手を付き手首の骨折
- 身体づくりの為に外遊びを多く取り入れ、朝、夕も園庭に出て体を使って遊ぶ事を続けてきたので怪我の予防になっていると思っていましたが、もっと基本的な運動も取り入れ子ども達の体づくりを考え直して行こうと思っています。
- また今年度は、福祉祭りやこども音楽祭に参加する機会を頂き 運動会のオープニングを飾った3・4・5歳合同の遊戯や体操などを披露しました。楽しく踊る子ども達の姿が何度も見られると土・日開催でしたが保護者の方にも喜んで参加協力頂きました。
- 気になる子について、各クラスには、まだ専門機関に繋がりたい子ども達があります。電話で様子を伝え保健師さんの訪問待ちの現状です。保育所現場も大変ですが、間を取り持つ保健師さんも各園の要請になかなか対応できず大変だと思えます。
- 専門職として研修などにも積極的に参加し気になる子ども達への対応を考えていきたいと思えます。